

# 文化財を訪ねて

## —見てある記—

### 古き良き建造物への誘い

昨今、世界文化遺産についての話題が取り上げられますが、桶川市内にも、国や市の文化財指定を受けた歴史的建造物があります。このような古き良き建造物を紹介してみたいと思います。

最初に取り上げてみたいのは、川田谷荒川河畔にある「泉福寺の山門」です。昨年瓦葺きの屋根が銅板葺きに改修されました。棟木の墨書から元禄8年（1707年）建立と判明しています。寺院明細帳によると石像の仁王像はさらに古く寛文2年（1662年）の築造です。合わせて市指定文化財となりました。軒裏の木組みは彫刻と共に見事です。市内にはほぼ同時期建立、駅前の「浄念寺山門」、倉田「明星院山門」もあり見逃すことができません。

次に神社建築としては、川田谷「諏訪神社本殿」があげられます。江戸期の木工の技術と、壁面の彫刻の説話表現なども特筆してよいと思います。近年本殿の覆屋が改修されました。さらに中山道の宿場町の歴史を感じさせる町家、店蔵等の古い建造物にも注目してよいでしょう。

○「矢部家」（市指定文化財）…宿場町の中心に近く、明治後期の土蔵づくりの店蔵で、居住部、文庫蔵と三つの棟が奥に並んで建っています。通り土間の町家形式を今

に伝え、よく保存されてきました。

○「島村家住宅土蔵」…江戸末期の三階建ての建造物で、江戸天保期の建物と伝えられ市内で最も古い土蔵です。鬼板、箱棟、屋根が復原改修されています。

○「小林家（旧旅籠）」…島村家同様、ほぼ同時期の建物。外観の連子格子等、江戸町家の雰囲気をよく残しています。

○「竹村旅館」…桶川宿の旅籠屋の特徴を今に伝えています。一、二階南の張り出した部分は後世の改変のようです。一階の潜り戸付き大戸と土間は一見の価値ありです。以上の三件は「国登録有形文化財」です。

その他、「新島家」、「浅子家」、「巢瀬家」なども古き良き江戸の雰囲気を良く残しています。

最後に、文久元年（1861年）の和宮降嫁の際、宿泊された県指定文化財「桶川

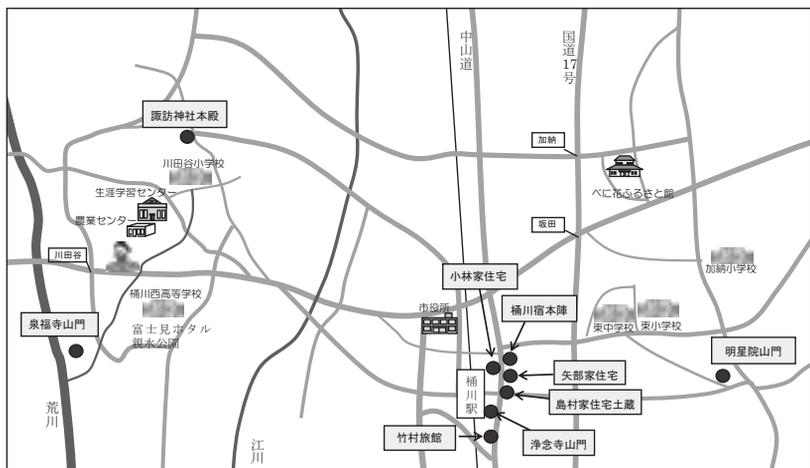


泉福寺山門

宿本陣遺構」を取り上げてみたいと思います。現在は私邸となっておりますが、佇まいを外から伺うことができ、当時の雰囲気味わうことができます。

このような歴史的建造物に思いを寄せ、その語りかけるものに耳を澄ますことで、私たちは尽きせぬ示唆を受け取ることができます。中山道宿場館で親切なお話を聞きたい。アの説説も受けられますので足を運んでみてはいかがでしょう。

桶川市文化財保護審議委員 宮田 栄



文化建造物箇所図